

基本政策6 まちの活力を高めるために

- 基本施策6－1 農林業を活性化させる
- 基本施策6－2 畜産業を活性化させる
- 基本施策6－3 商工業を活性化させる
- 基本施策6－4 観光を活性化させる
- 基本施策6－5 雇用環境を整備する
- 基本施策6－6 産業間の連携を強化する

基本政策6 まちの活力を高めるために





基本施策 6-1 農林業を活性化させる

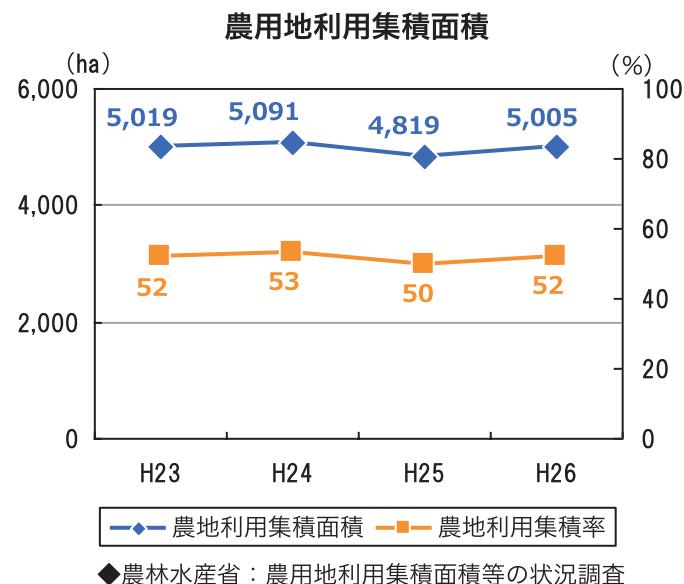
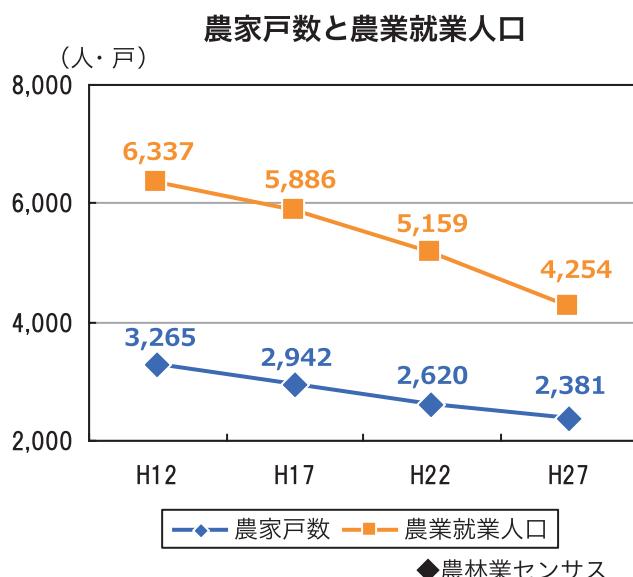
現状

農業従事者の高齢化や後継者不足のため、農業の担い手確保が喫緊の課題であり、また、農業従事者減少に伴う遊休農地の増加も問題視されています。加えて、農業のグローバル化に伴い、企業や大規模経営者にとってビジネスチャンスが広がる一方で、本市の大半を占める小規模経営者の置かれる環境はさらに厳しさを増すことが懸念されています。

昨今の農業情勢を取り巻く環境に対応し、持続可能な農業経営を推進するためには、農業経営者（以下、農家）個々のレベルアップ・競争力アップが必要であることから、農家の経営基盤強化を支援するとともに、農地の確保・保全に努めていくことが求められています。

また、農業農村の有する多面的機能が将来にわたって持続的に発揮されるためには、担い手への農地集積の加速化や生産効率の高い農地の確保を進め、意欲ある農家が農業を継続できる環境を整えることが急務となっています。

林業においては、長期的な木材価格の低迷による林業経営の悪化、従事者の高齢化及び後継者の減少が進んでおり、生産性の向上や後継者の確保・育成が求められています。



課題

農業の担い手確保及び育成
経営の効率化及び経営基盤強化
中小規模農家の所得向上
農地の確保・保全
農業担い手への農地集積
林業の生産性向上

具体的な施策

- ①農業を支える担い手や支援者を育成する
- ②農業の効率化を促進する
- ③農業生産基盤を強化する
- ④優良農地を確保する
- ⑤農業担い手の営農環境を整備する
- ⑥林業生産基盤を強化する

目指すまちの姿

農家の経営基盤の強化や農地の集積により農業所得が向上し、魅力ある産業となることで、農業の担い手が確保され、持続可能な農業が行われています。

林業の生産性の向上と適正管理による品質の向上により、林業経営が強化されています。

具体的な施策	取組内容	目標値			担当課
		指標	H26 (基準年度)	R4 (目標年度)	
① 農業を支える担い手や支援者を育成する	・認定農業者の確保 ・新規就農者の確保 ・農業関係団体への支援	認定農業者数	601人	700人	農務畜産課
② 農業の効率化を促進する	・農地の集積・集約の推進 ・集落営農化、集団化、法人化の支援	農用地利用集積率	52%	54%	農務畜産課
③ 農業生産基盤を強化する	・園芸作物の振興（地域特産物の生産支援、高付加価値化支援） ・農業生産基盤強化の支援（農業施設等整備支援）	新規就農者数	15人／年	15人／年	農務畜産課
④ 優良農地を確保する	・農業振興地域整備計画の管理 ・遊休農地の再生 ・環境保全型農業の推進	農振農用地面積	8,582ha	8,547ha	農務畜産課
⑤ 農業担い手の営農環境を整備する	・農業基盤施設の整備と老朽化施設の更新 ・地域共同の農業施設維持管理活動の支援 ・土地改良区の連携強化と運営効率化の促進	農用地利用集積率	52%	54%	農林整備課
⑥ 林業生産基盤を強化する	・施業集約化の促進 ・林道の開設や改良工事の実施 ・民有林の管理支援	林道延長	48,090m	52,890m	農林整備課

関連する計画

元気アップアグリプラン(平成29～33年度)

農業振興地域整備計画(平成30～34年度)

農業経営基盤の強化に関する基本的な構想(平成26年～)

森林整備計画(平成28～37年度)

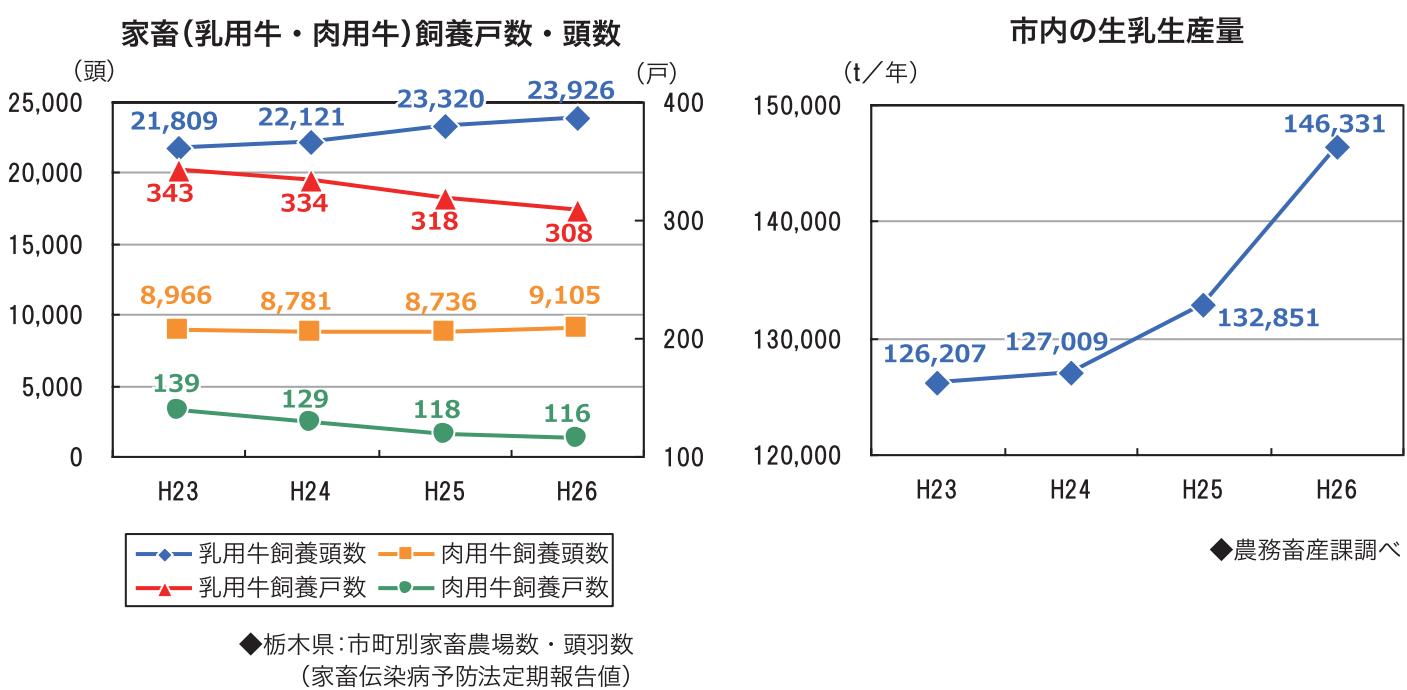


基本施策 6-2 畜産業を活性化させる

現状

近年急速な経済のグローバル化に伴う輸入飼料価格や燃料費の高騰、また、貿易摩擦等の影響による不安などを背景に、離農する農家が増加し、乳用牛及び肉用牛生産の飼養戸数が減少傾向にあることから、市の基幹的産業である畜産業においても、厳しい環境となっています。

将来にわたり持続可能な畜産業としていくためには、地域の関係者が連携し、酪農の経営基盤を支える担い手の確保、生乳生産本州一を生かしたまちづくりの推進等により、地域全体で収益性を向上させる取組が求められています。



課題

- 乳用牛及び肉用牛生産の飼養戸数の減少
- 畜産のまちとしての魅力向上
- 循環型農業の確立

具体的な施策

- ①畜産業を支える担い手を支援する
- ②魅力ある畜産のまちづくりを推進する
- ③資源循環型農業を推進する

目指すまちの姿

畜産農家の経営基盤の強化により、農業所得が向上し、魅力ある産業となることで畜産業の担い手が確保され、持続可能な畜産業が行われています。

具体的な施策	取組内容	目標値			担当課
		指標	H26 (基準年度)	R4 (目標年度)	
① 畜産業を支える担い手を支援する	・収益性の高い生産体制の構築 ・水田飼料作物の推進による自給飼料率の向上 ・家畜伝染性疾病の発生予防対策の推進	1戸当たりの平均乳用牛飼養頭数	78頭	82頭	農務畜産課
② 魅力ある畜産のまちづくりを推進する	・「生乳生産本州一のまち」である確固たる地位の確立 ・地域ブランド和牛の生産拡大	生乳生産量	146,331t／年	147,284t／年	農務畜産課
③ 資源循環型農業を推進する	・牛ふん尿と生ごみを原料とした有機質たい肥の製造及び利用促進 ・堆肥センターの効率的な管理運営	ふん尿及び生ごみ搬入量	11,483t／年	16,258t／年	農務畜産課



プハーの瞬間！

(平成28年度
牛乳でまちづくり！フォトキャンペーン最優秀賞)



牛乳で乾杯！

関連する計画

ミルクタウン戦略(平成29～33年度)
酪農・肉用牛生産近代化計画(平成29～37年度)
元気アップアグリプラン(平成29～33年度)



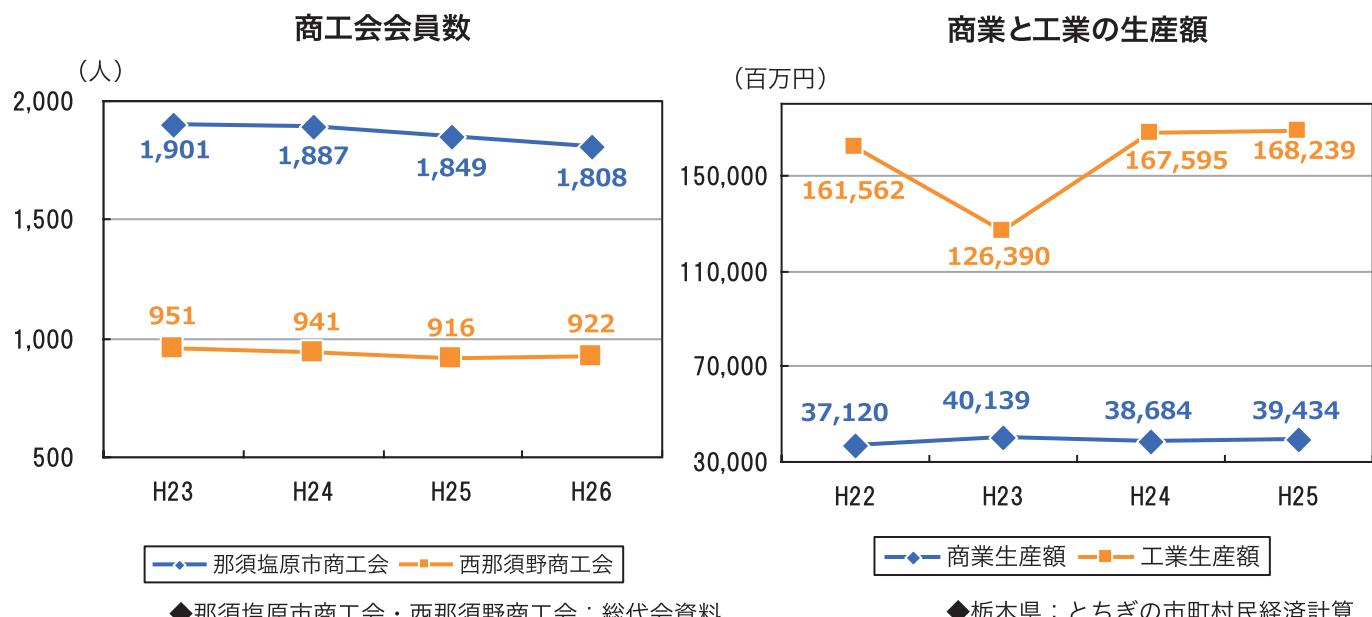
基本施策 6・3 商工業を活性化させる

現状

景気は緩やかな回復基調が続いているとされていますが、地方においては、景気回復の効果がいまだ十分でない状況にあります。特に、中小企業者においては、人口の減少や高齢化、海外との競争の激化等、経営環境の変化に直面しており、売上げや事業者数の減少、経営層の高齢化等の課題を抱えています。

こうしたことから、市や商工会、金融機関等が連携して行う中小企業の創業・事業再生に、より一層の支援強化が求められています。

また、商工業の活性化は、税収・雇用の安定や定住人口の増加につながり、定住人口の増加は、地域経済への波及効果が大きいことから、引き続き既存の中小企業の経営体力の強化を図っていくことが求められています。



課題

- 地域経済の活性化
- 中小企業の経営安定化
- 勤労者福祉の向上

具体的な施策

- ①地域経済を持続的に発展させる
- ②中小企業の事業活動を支援する
- ③勤労者福祉を充実させる

目指すまちの姿

地域の商工業が活性化され、法人・個人の所得が向上し、まちが元気になっています。

具体的な施策	取組内容	目標値			担当課
		指標	H26 (基準年度)	R4 (目標年度)	
① 地域経済を持続的に発展させる	・地域商店等の活性化支援 ・商工団体との連携 ・商工イベントの推進 ・創業支援	卸売業・小売業の商店数	1,088店	1,088店	商工観光課
② 中小企業の事業活動を支援する	・制度融資※の充実 ・必要な資金の融資あっせん	中小企業融資制度における融資件数	231件／年	250件／年	商工観光課
③ 勤労者福祉を充実させる	・中小企業者の退職金共済制度加入支援 ・勤労青少年の福利厚生の充実	勤労青少年ホーム講座受講者満足度	86%	90%	商工観光課



ふれあいまつり



創業支援塾

関連する計画

創業支援事業計画(平成27～30年度)

※制度融資：自治体・金融機関・信用保証組合の3者が協力し、中小企業の資金調達の円滑化を図ろうとする制度